

用語解説

(1) 海溝型大地震

海溝沿いで、海洋プレートと大陸プレート間のずれによって生じる大地震。海側が陸側の下に潜り込むような低角逆断層が典型的である。世界の巨大地震の多くがこの型である。

(2) 四万十帯

西は南西諸島から東は房総半島に至る長さ約 1800km、最大幅 100km に渡る帯状の地域。海洋プレートの沈み込みによって海溝の堆積物がはぎとられて形成された付加体や前弧海盆の堆積物が広く分布する。

(3) 興津メランジュ

「メランジュ」とは、本来は混合を意味するフランス語で、様々な種類の岩石が複雑に入り交じった地質体をいう。プレートの沈み込み作用によって形成される特徴的な地質体である。高知県窪川町で見られる興津メランジュでは、付加体の比較的深いレベルで生じる底付け作用によって形成されたデュープレックス構造が見られ、構造的にも震源深度で変形してきたことを示している。

(4) 統合国際深海掘削計画 (IODP)

日本が米国と共にリードする 21 世紀の国際的な科学深海掘削計画のことで、日本のライザー掘削船「ちきゅう」と米国のライザーレス掘削船を中心に運用していく国際科学プロジェクト。両掘削船で得られたコアの解析や掘削孔を利用した計測を通じて、地球規模の環境変動、地震発生メカニズム、海底下に広がる未知の生物圏等の解明を進め、新しい地球・生物科学の創成を目指す。